

隨筆春城六種



拙著「春城隨筆」を世に問うたのは昨年の末であつた。本年三月、大震災に壞れた家屋の改築に取りかゝり、牛込矢來に假寓を定めた當座、訪ひ來る人も少かつたので、圖らず閑を得て、漫興雜感を筆に託したのが此の隨筆である。署して「隨筆春城六種」といふは、内容が六種に分れてゐるからである。第一は「感興深き追懷」、第二は「獄窓舊夢談」で、共に私の回顧録中から、聊か奇警に庶幾ちよいものを収録したのである。第三の「圖書その折々」は、私が圖書研究に没頭した頃、折に觸れて書いたものを更らに加除訂正したので、長篇、短章錯綜してゐる。第四「趣味談採餘」は、春城隨筆の「趣味談叢」に入れる筈であつたのが、紙數に制限され

て收め得なかつたものを採録したのである。第五「意外録」は、人事其他で案外と感ずることを百件近く寄せ集めたもので、談諧蒙求とでもいふべき戯筆である。第六「衝口發」は、故人の書名を借用したのだが、實は出鱈目の片々録で、世相に觸れた折々の座談を筆記したものである。奇警を欲するため特に漢文崩しの文體を選んだけれども、眼高く手低きを奈何せんである。要するに、全篇漫興の偶筆で、大方に示すに足るとは思はないが、數月の勞に成つたものを、流石に反故籠に捨てかねて、爰に出版することになった。

昭和二年六月中浣

春 城 識 す

# 隨筆春城六種

## 目次

感興深き追懷……………一

一 近衛篤磨公を憶ふ……………三

二 高麗園雅集……………六

三 康有爲と會飲……………一二

四 朴氏泳孝と觀梅……………一六

五 幼時見た前原と奥平……………一八

六 坪内逍遙翁の別莊に宿りて……………二六

七 正倉院に團十郎と會す……………三五

八 紅葉山人と最後の會食……………三七

- 九 寺崎廣業の騰龍軒……………三九
- 一〇 中井敬所翁を懷ぶ……………四二
- 一一 印の結婚……………四八
- 一二 白河の提燈行列……………五二
- 一三 足利町の追懷……………五七
- 一四 酒豪二人の追憶……………六一
- 一五 盲啞學校に失明の馬琴を講ず……………六六
- 一六 横濱に於ける同窓會……………六九
- 一七 東京に於ける同窓會……………七七
- 一八 貢進生時代の大學……………八六
- 一九 奇想天外の天神講……………九二
- 二〇 高島吞象翁と語る……………九七

京濱間の鐵道(九)

高島學校(一〇)

易を心掛けた動機(一一)

インスピレーシ

# 獄窓舊夢談

ヨシ(二〇四)	敬字翁に關する話(二五)	易の翻譯(二〇八)	面白い按摩(二〇九)	象
山變死の卦(二二)	外商と贖金(二三)	薩摩武士(二六)	閑叟公の事ども(二七)	
鍋島の田中(二三)	家康時代の外資輸入(三五)	大名と大阪の金貸(三七)	三井	
倒産を免る(三六)	伊達家の硝石(三七)	吞象とは何ぞ(三五)		
二一	光悅の遺蹟を訪ふ			一三〇
二三	五色の旅			一三八
二三	修善寺の鐘聲			一四七
二四	幼時の風遊び			一四七
一	忽ち識を爲す(二五)	二、新聞界第一の犠牲(二七)	三、入獄(二六)	四、
新潟へ護送(二四)	五、險於山(二六)	六、地獄と極樂(二七)	七、留置所の一	
夜(二七)	八、破獄未遂を見る(二七)	九、護送の奇縁(二七)	一〇、高田を通過	
(二七)	一一、長野監獄(二七)	一二、獄中に書を講ず(二七)	一三、獄中の著	
述(二八)	一四、獄中の電信(二八)	一五、外界との交通(二八)	一六、寫眞屋	

- となる(二六) 一七、書家となる(二六) 一八、門下生に傳徒の親分(一九) 一  
 九、送別會(一九) 二〇、大隈邸の邂逅(一九) 二一、相撲興行(一九) 二二、  
 演劇(三〇) 二三、獄中の賭博(三〇) 二四、死刑(三〇) 二五、煙草の密入(三〇)  
 二六、一椿事起る(三〇) 二七、暗室(三三) 二八、雜事雜感(三三)

## 圖書その折々……………三三

## 一 圖書館の不備と其補足私案……………三五

- 圖書館の現状(三五) 圖書の分布(三五) 間口を廣げよ(三五) 富豪の文庫(三七)  
 珍書調査と臺帳(三六) 調査方法(四三) 一種の保存獎勵(四七) 大切な文化事業  
 (四九)

## 二 高麗藏經に就て……………三五

## 三 古寫經趣味……………二五六

## 四 六朝文書を觀るの記……………二六三

## 五 北越雪譜の出版さるゝまで……………二七

- 1 牧之と馬琴及び京山(二七) 2 京傳馬琴約を果さず(三五) 3 上梓までに三十年

	(三七)	4 越後國雪物語(三七)	5 馬琴への義理立て(二六)	6 馬琴との絶縁
	(三八)	7 畫工其他に就ての配慮(二六)	8 材料發見の喜び(二九)	9 馬琴と京
		山の疎隔(二五)	10 京水と雪譜(二五)	11 越後下りの前觸れ(二六)
		定まる(二九)	13 著作料僅に五兩(三〇)	14 京山の馬琴訪問(三〇)
	(三〇)	16 道樂ものゝ北馬(三〇)	17 父子相携へて越後へ(三一)	18 牧之中
	(三一)	風再發(三一)	19 京山と越後(三一)	20 京山と其家庭(三一)
	(三二)	22 餘談(三三)	21 京山の餘技と嗜好	
六		私の隨筆觀……………		三三〇
七		日誌を書く心得……………		三三六
		私家の日記(三三)	青年時代の日記(三三)	日記を書く要訣(三四)
八		書簡三説……………		三四四
		1 書簡は情の使者(三四)	2 書簡の八難(三四)	3 書簡保存のすゝめ(三五)
趣味談採餘……………				三六三
一		含蓄の趣味……………		三六五

二	聯想の趣味	三六八
三	煙草禮讚	三七五
	煙草に關する文獻(三六六)	
	煙草の異名(三六六)	
	日本煙草の特質(三六六)	
	煙草の附屬 品(三六六) アネクドート一二(三六六)	
四	紙	三六四
五	包裝と裂地	三九七
六	玩香	四〇四
	蘭奢待より一木四名(四〇五)	
	蘭香の面白味(四〇五)	
	雙六と芝居に似る(四〇五)	
	風俗に因むもの(四〇〇)	
	雅びな源氏香(四〇二)	
	故事	
七	温泉と文藝	四一二
八	旅	四一九
	昔の旅(四一九)	
	山岳旅行(四二四)	
	旅に要する豫備知識(四三〇)	
	旅と風景美(四三〇)	
	案内記(四三三)	
	旅館不快のかすく(四三四)	
九	堀出し物	四三七

一〇 骨董のかけ口……………四四一  
意外録……………四五五

はしがき……………四五七

一 無ささうだが……………四五八

二 解剖社から兵法の大家 藤公看護婦に招かる……………四六〇

三 キ印にされた勝伯 異境に持てた省亭……………四六一

四 裸體應接の二幅對……………四六三

五 君子の好迷 お鼻さん……………四六四

六 ナプキンの上に贈與の勳章 中島信行の議場整理法 物々しい重器扱ひ……………四六五

七 異彩ある博徒の親分……………四六八

八 龍動の真中で切腹の準備 前將軍に草履を取らす……………四六九

九 似顔付サイン 大根の極印……………四七一

一〇 潔癖と勳違ひ……………四七三

一一 蝸涎の液 物騒な娼藥……………四七三

一二 力士を向うに廻して 森林意匠の一室……………四七六

- 一三 攝津大塚の喉 美男の吉良上野介 三人の林權助……………四七八
- 一四 一切經を讀んじ又手寫す……………四七九
- 一五 十里の間に三百餘の關所 社寺の商賣……………四八〇
- 一六 浮浪者の半面 惡所の希觀本……………四八二
- 一七 牛峯博士と紙 詩版を薪とす……………四八三
- 一八 播植―櫛寸―靴 金城の鷓尾―日光の建築……………四八五
- 一九 地獄は僧徒で満員……………四八六
- 二〇 趣味は異なもの……………四八七
- 二一 缺けた處から召上げれ テンジン違ひ 風呂船……………四八九
- 二二 俳優入浴的一幕 蟻と蚊……………四九一
- 二三 狩野永探 來聘使喫驚す……………四九二
- 二四 八重野夫人 外人の出鱈目 難訓一斑……………四九三
- 二五 色狂女性と奇怪な按摩……………四九四
- 二六 柿本人麿―髻自慢 生髻賣買……………四九五
- 二七 日光の宮藏運動 明皇貴妃……………四九七

衝口發

- 二八 通説當てにならず……………四六
- 二九 佐賀の亂の陶彈 乞食剩錢を用意す 布團の中では眠られない……………五〇〇
- 三〇 奥平の奇行 慧春禪尼 維新當初の新聞紙……………五〇三
- 三一 西郷従道侯 福澤翁 前島男と星亨氏……………五〇五
- 三二 木戸公の乞食振り 板垣伯の住居……………五〇八
- 三三 明治の顯官と舊藩主 閑叟公の苦手……………五一〇
- 三四 中將姫支那に喧傳さる 圖書の關所……………五一二
- 三五 天一坊の贈玉 箕南一流の命名……………五一四
- 三六 幕末の外交官 五代友厚の書簡……………五一五
- 三七 斯氏の哲學書 油田の診察……………五一八

五二一—五七〇

(了)